



研究テーマ

速乾性擦式手指消毒薬の消毒効果を低下させないための使用方法の検討

【キーワード：速乾性擦式手指消毒薬、手洗い、手指細菌、消毒効果】

領域・氏名

専門基礎分野（看護人間学Ⅰ） 教授／ 島内千恵子

概要

感染予防対策として最も基本的で重要な手洗いや手指消毒の効果を、手指の細菌の培養によって検討してきました。その結果、手洗いの直後に速乾性擦式手指消毒薬を使用した場合、消毒効果の低下がみられることがわかってきました。このような消毒効果の低下を起こさないための使用方法の検討をしています。

具体的な内容

最近よく使われているアルコールを主成分とする速乾性擦式手指消毒薬ですが、手洗い直後に使うとその効果が低下し、使用後の手指から細菌が多数検出されることが多いことが、今まで行ってきた研究でわかってきました。また、消毒薬のクロルヘキシジングルコン酸塩が0.5 g/100mlと比較的高濃度で添加された手術時の速乾性擦式手指消毒薬は、手洗い直後に使用しても細菌の検出数が少ないことがわかってきましたが、検出菌数の多い場合もあります。そこで、手洗い後の使用に適している消毒薬の形状（ジェル状、液状）やクロルヘキシジングルコン酸塩の濃度について、さらに検討します。また、頻回に手洗い・手指消毒が実施される場合は、手洗いから時間をおかずに、速乾性擦式手指消毒薬による手指消毒が行われる可能性があるため、手洗いによる消毒効果の低下が、手洗い後どの程度の時間持続するかを検討します（科研費：24593239、19K10831）。

Information（情報）

「手洗い・手指消毒」など、感染とその予防についての出前講義が可能です。